

- of ice crystals in natural clouds, *J. Atmos. Sci.*, **20**, 138-147.
- Podzimek, J., 1968: Aerodynamic conditions of ice crystal aggregation, *Proc. Int. Conf. Cloud Physics*, Toronto, 295-299.
- Pruppacher, H.R. and K.V. Beard, 1970: A wind tunnel investigation of the internal circulation and shape of water drops falling at terminal velocity in air, *Quart. J. Roy. Meteor. Soc.*, **96**, 247-256.
- Pruppacher, H.R. and R.L. Pitter, 1971: A semi-empirical determination of the shape of cloud and rain drops, *J. Atmos. Sci.*, **28**, 86-94.
- 佐糺純男, 1960: 静止大気中を落下する紙片の姿勢に就いて, *気象集誌*, **38**, 125-133.
- Sasyo, Y. 1971: Study of the formation of precipitation by the aggregation of snow particles and the accretion of cloud droplets on snowflakes. *Papers Meteor. Geophys.* **22**, 69-142.
- Yagi, T., 1970: Measurement of the fall velocity of ice crystals drifting in supercooled fog, *J. Meteor. Soc. Japan*, **48**, 287-292.
- Zikmunda, J. and G. Vali, 1972: Fall patterns and fall velocities of rimed ice crystals, *J. Atmos. Sci.*, **29**, 1334-1347.
- Zikmunda, J., 1972: Fall velocities of spatial crystal and aggregates, *J. Atmos. Sci.*, **29**, 1511-1515.
- 佐糺純男, 1960: 静止大気中を落下する紙片の姿勢



太田久雄・長尾 隆著

公害と気象

—観測と調査の実際—

地人書館, 1974, A 5, 本文 242P, 索引 4P

この数年、環境問題が世界的に重視されるようになり、わが国でもこれに関係した書物は数多く出版されている。本書は公害と気象という表題になっているが、内容は都市や工場などの汚染源周辺地域で問題となっているいわゆる高濃度大気汚染と気象との関係を、観測や調査をしようとする人を主として意識して書かれた本である。

内容は3編に分けられ、Ⅰ. 大気汚染と気象、Ⅱ. 測定、Ⅲ. 調査の実際 となっている。Ⅰ. は基礎編ともいえるべきもので、章を列挙してみると、総論、大気汚染物質と汚染の実態、大気汚染に伴った気象の変化、煙の拡

散、高煙変化による汚染の変化、局地的な気流とそれによる汚染質の移動、都市の大気汚染である。Ⅱ. は総論、測定機器と観測方法、上空の気象および汚染物質調査、の3章で、汚染自体の観測・測定法はⅠ. の中で部分的に測定機の説明がされている関係もあって、Ⅱ. の中では、主に気象関係の観測に重点が置かれている。Ⅲ. は単一地点観測値の解析、各種等値線の引き方と汚染との関係法、汚染の地域分布の調査法、大気汚染の気象予測、拡散計算の章から成っている。

著者はいずれも気象関係の出身で、千葉県の公害研究所や気象コンサルタントとして、大気汚染気象調査の第一線に立っているだけに、日常の体験にもとづいた書き方がされているから、現場でこの種の調査を手がけようとする人にはよい手引となるだろう。限られた頁数にこれだけのことを盛込むのだから、全体の書き方が、概説的になったのは止むを得まい。大気汚染気象に馴染みの薄い気象関係者は一読すると、現象の実態がよくわかる。紹介者の欲を言えば、本書は気象に重点が大きいかかっているが、もう少し大気汚染について詳しく書かれているとよかったという気がしないでもない。(河村 武)